町史だより

旧暦八月十五夜

先月号では、字棚原（十二年に一度）と字小波津（三十年ぶり）の旧暦八月十五夜「むらあしび」を紹介しましたが、ほかにも町内では、字幸地や字翁長でも「十五夜あしび」が行われました。

豊年を祝い、月をあがめて歌い踊る十五夜行事は、西原の各地域で行われてきました。今でもあちこちで「あしびぐに（遊び国）だった」と語り継がれているほどです。

◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇

字幸地でも「あしびぐに」を自負するかのごとく、**二六演目**にもおよぶ「十五夜あしび」が開催されました。これでも前回（一九九三年　演目数三〇、一九八一年　演目数三一）より控えめなのだそうです。

あしびの第一演目・長寿の御主

長寿の御主（ウフシュー）にはじまり、舞踊・獅子舞・狂言・空手・歌劇のほか、民謡ショー・ギター演奏などが披露されました。あしびなどの第一演目に演舞される**長寿の御主の口上**に幸地独自のセリフが入っていたり、歌詞や踊りの所作、テンポまで独特な**柳天川**（やなぎあまかわ）はみどころのひとつとされています。

戦後二代目の幸地獅子舞。七つの技を披露するため、七度舞台に登場する。

以前は、獅子・踊・狂言の各ニンジュにわかれてきびしい稽古が行われたようで、ムチでたたかれることもあったといいます。また、あしびに女性が参加するようになったのは、戦後からなのだとか。現在は人々の趣味や娯楽も増え、むらのまつりへの魅力が薄れつつあるように感じられる一方で、各地域の伝統芸能を継承・保存する動きもみられます。

幸地でも、途絶えて久しい組踊を満月の下で演じる日がやってくるかもしれません。

狂言「双子物語（ターチューチョーギン）」

字翁長では、旧暦八月七日の**ヨンシー綱**にはじまり、旧暦十五日の十五夜あしびでクライマックスを迎えます。

町内では、旧暦六月に綱ひきを行う所がほとんどですが、ここ翁長のヨンシー綱は旧暦八月。沖縄では稲の刈入れ時期を過ぎているため、旧暦六月の綱ひきの際、字我謝からワラをわけてもらい保管していました。ワラで蛇（ハブ）型のヨンシー綱をつくります。その綱を頭上にかかげて運び、円を作り「ヨンシーヨンシー翁長のヨンシー」といいながら七回まわります。ヨンシー綱の由来については、悪疫や火事などをはらうために行われているとか、ある老人が子どもたちを遊ばせるためにはじめられたなど伝承も様々。

旧暦八月七日朝、ヨンシー綱をあんでいきます

旧暦八月十五夜の綱ひきは、沖縄県南部一帯でも行われています。また、九州南部にも分布しており、綱は竜・蛇のかたちをとっているものも多いようです。

さらに、竜・蛇型の綱をひきずって歩く「綱ひきずり」という行事は、九州南部にみられ、これに類似するものは広く関東周辺まで分布しています。

もっと広げてみるならば、八月十五夜の収穫祭や、竜・蛇信仰は中国に古くから分布しており、それらと綱ひき行事が結びついたら…？？なんて想像すると、ちいさな地域のひとつの行事が、大きなスケールをもっているように感じられませんか？みなさんも、まずは身近なところをよ～く観察してみてはいかがでしょうか。

七回まわったら、口に手をあてて、「あわわわわ」

頭を東向きに、とぐろ状にヒヌカンに供えられたヨンシー綱。大きさは毎年違っている。

お問い合わせ：西原町立図書館町史編集係TEL944-4998　HP：http://www.town.nishihara.okinawa.jp/town.history/index.btml